

昔むかしのことです。

ある晩、一匹のとらが、お腹をすかせて山から下りてきました。とらは、えものをさがしてある家の庭にしのびこみました。すると、家の中から、子どもの泣き声が聞こえてきました。とらが、まどに耳をあてて聞いてみると、お母さんが子どもをしかっている声が聞こえてきました。

「もう泣きやみなさい。そんなに泣くと、とらが来るよ」

けれども、子どもは泣きやみません。とらは、

(ふうん。あの子はおれのことなんか、ちっともこわくないんだな) と思いました。なおも聞いていると、お母さんが、

「ほら、ほしがきだよ。もう泣きやみなさい」といいました。すると子どもは、すぐに泣きやみました。とらは、びっくりしました。

(へえ。あの子はすぐに泣きやんだぞ。

ほしがきって、よっぽどおそろしいやつにちがいない)

そして、子どもをさらっていくのは、もうあきらめる

ことにしました。そのかわり、牛をおそうことにしました。

さて、牛小屋には、先に、どろぼうが、牛をねらってしのびこんでいました。

とらが牛小屋に入っていくと、どろぼうは、牛とまちがえて、とらの背中にとび乗りしました。とらは、いきなり何かにとび付かれたので、びっくりしたのなんの。

「わあ、ほしがきにつかまったあ」

とらは、全速力で走りだしました。

どろぼうは、逃がしてはなるものかと、とらの背中にしっかりしがみつきました。そして、人に見つからないうちに逃げてしまおうと、とらにむちを当てました。とらはますますすこわくなって、どろぼうを背中に乗せたまま、必死で逃げました。

明るくなってみると、どろぼうは、なんと、牛ではなくてとらに乗っているのに気がつききました。どろぼうは、びっくりしたのなんの。あわててとらの背中からとび降りると、

いちもくさんに逃げていってしまいました。

とらは、あとも見ずにどンドン走って、山へ逃げかえたということです。

おしまい

出典 『語りの森昔話集2ねむりねっこ』村上郁再話／語りの森